国語科学習指導案

情緒障害特別支援学級　　２年　男子３人
６年　男子１人　計４人
指導者　田　平　奈保美

１　題　材　名　　２年「みじかい　ぶん（二)」，６年「紙しばいをつくろう（二)」

２　題材について

（１）題材の価値

（２　年）

３名の子どもは,それぞれ実態に差はあるものの,平仮名で書かれた短い文や絵本を読むことには興味があり，休み時間に自分から絵本を読む様子もよく見られる。また，身の回りの具体物や絵を見て分かったことを，設定された話型に沿って「これは○○です。」や「○○が○○です。」といった主述が整った文で，話をしようとする姿が見られるようになってきている。しかし，文を文節ごとに読むことは十分ではなく,「も」「を」「で」などの助詞の使い方が不確かであるため，話の内容を正しく理解していないことが多く，具体物や絵を見て主語と述語の関係をつかみ,助詞を正しく使って短い文で言ったり,書いたりすることは十分ではない。

そこで，本題材では，生活の身近な事象や自分の経験を文にしたものを基にして，短い文を文節ごとに読んだり,「を」「も」「で」などの助詞の使い方を知ったりするとともに，話型に沿って主述が整った二，三語文で発表したり，それを書いたりすることができるようにする。

指導に当たっては，子どもが意欲的に取り組むことができるように，ゲーム的な要素や動作を伴う活動を多く取り入れるようにする。また，文の意味をとらえやすいように，できる限り文と絵を一緒に提示するとともに，動詞については動作化したり，「も」「を」「で」などの助詞については，正しい使い方に慣れるために，それぞれの助詞のカードを作って，助詞に対する意識を高めたりする。文を音読する際には，文節ごとに読みやすいように，文節ごとの区切りの間を広くする。さらに，主語と述語の関係をつかみ，助詞を使って正しく二，三語文で発表できるように,「○○も○○です。」「○○は○○で○○をしました。」などといった発表話型を常に見える位置に掲示しておき，必要がある子どもはそれを見ながら発表することができるようにする。そして，３人の実態差を考慮して，基本的には，同じ教材を使いながらも，一人一人の実態に応じた課題に取り組むことができるようにワークシートや発問をその課題に合わせたものにする。

このような学習を通して，３名の子どもは,「も」「を」「で」などの助詞の使い方に慣れ，助詞を意識しながら，主語と述語の関係をつかみ，二，三語文で話そうとしたり，書こうとしたりする態度を高めることができると考える。

（６　年）

対象とする子どもは，読むこと，書くことに苦手感が強く，特に，音読や視写については，自分から取り組むことはほとんど見られない。しかし，ゲームの攻略本や，虫，恐竜図鑑などについては,積極的に読む場面も見られ，興味のある内容については，嫌がらずに読むことができる。また，物語の読み取りについては，対象とする子どもが事象についてほぼ分かっているような興味のある簡単な物語であれば，音読をしようとする意欲が少しずつではあるが見られるようになってきている。登場人物の心情については，喜怒哀楽が分かり，簡単な理由をつけながら気持ちを読み取ることができるようになってきている。また，最近は，ローマ字の学習に意欲的に取り組み，ローマ字五十音順表を見ながら，ローマ字で書かれた言葉を読む楽しさを味わうことができるようになってきている。書字については，平仮名，片仮名は形態や筆順に間違いがあるものもあるが，書くことができる。漢字は，読むことは３年生程度，書くことは，１年生から２年生程度で滞っている。

そこで，本題材では，まず，物語の楽しさを味わわせるとともに，その中で読むことができる漢字を増やしていく。また，これまでと同様に登場人物の気持ちを理由をつけて考えるとともに，それを絵に表すことで心情の理解を深める。さらに,紙芝居を作り，それを発表することで，音読する楽しさを味わうことができるようにする。

指導に当たっては，教材には子どもが興味を示す昆虫を主人公にした自作物語を準備することで,意欲的に取り組むことができるようにする。また,その中に，２，３年生で学習する漢字とローマ字で書かれた言葉をいくつか入れて，確実に読むことができるようにする。さらに，物語については,読みやすいように，全体の量も短くし，かつ一つ一つを短い文で構成するとともに，文節読みができるように，分かち書きにする。そして，物語を紙芝居にして一単位時間の終わりには２年生に読み聞かせする場を準備することで，意欲をもって音読することができるようにする。

このような学習を通して，国語科の学習に対する興味関心を高め，２年生の前で，自分が作った紙芝居を発表することで，自己評価を高めることができると考える。

（２）題材の目標

○　簡単な自分の身の回りの事象や生活体験を文にしたものを楽しく読むことができる。 ○　短い文を文節ごとに読むことができる。 ○　主語と述語の関係をつかみ,「も」「を」「で」などの助詞を使った文で発表することができる。 ○　主語と述語の関係をつかみ,「も」「を」「で」などの助詞を使った文を書くことができる。	○　簡単な文で書かれた物語を楽しむことができる。 ○　物語に出てくる漢字やローマ字を読むことができる。 ○　物語の主人公の気持ちを考えて発表することができる。 ○　文節ごとに区切って物語を音読することができる。 ○　楽しみながら紙芝居を音読することができる。

（3）　子どもの実態

	物語への興味	音　　読	書　　字	主述の整った表現
A児　2年	自分の好きな絵本は，絵を見ながら楽しむことができる。自分から進んで絵本の文字を読んで楽しむ姿は見られない。	拗音，促音，長音，半濁音などが入っていない２～４文字程度の言葉は，拾い読みであれば読むことができる。	拗音，促音，長音，半濁音などが入っている言葉は，なぞり書きをして書くことができる。筆圧が弱いため，はね，はらいなどが曖昧である。	身の回りにあるものの名前については,「これは，○○です。」という話型に沿って話ができる。
B児　2年	自分の好きな本であれば何度も読み，場面を絵にしたり，音読したりして楽しむことができる。しかし，興味のない絵本は見ようとしない。	平仮名はよく覚えており，拗音，促音，長音，半濁音などが入っている言葉も，自分の生活体験でよく使う言葉であれば読むことができる。	２～４文字程度の身の回りの物の名前などは，聞いて書くことができる。拗音や促音などを含む言葉は，書く場所を指定すると書くことができる。	自分の話したいことや要求は，主語や助詞のない二語文で相手に伝えることができる。相手の反応を見ずに一方的に話をすることがある。
C児　2年	本が好きで，絵本や虫の図鑑などを積極的に読む。生活に出てくる簡単な漢字も読むことができ，内容を理解することができる。	一年生程度の物語文であれば，様子を思い浮かべながら，文節で区切って読むことができる。	筆圧が弱かったり，丁寧さに欠けるため，指定された場所に言葉を書き入れることが難しいときもある。	主述の整った表現は，できるが，興奮したり，慌てたりすると，主語が抜けた話になることが多い。

	物語への興味	漢字・ローマ字の読み	平仮名・漢字の書き	音　　読
D児　6年	自分の興味のある本（虫，恐竜，漫画偉人伝など）や文字が大きく書かれている物語はよく読んでいる。ただし，とばし読みが多く，興味のない本や物語はほとんど読まない。	日常生活に頻繁に出てくる漢字の読み方についてはよく知っている。３年生の漢字で読めないものが５０程度あった。 ローマ字の読みについては，５０音順表を見ながら読むことができる。	筆圧に気をつけて，丁寧に平仮名を書くことができるようになってきたが，筆順に気をつけて書くことが難しい。生活に関する言葉（１年生程度の漢字）であれば，漢字を交えて書くことができる。	読めない漢字があるとあきらめてしまう。好きな教材であれば，読み方を教師に尋ねて最後まで読もうとする。 簡単な話の紙芝居は大好きで，２年生に読んであげる姿が見られる。

3　指導に当たって

本学級の国語科の指導に当たっては，子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように，以下の点に留意して指導していく。

○　研究の視点１「教育的ニーズに応じた年間指導計画・指導内容一覧の作成」

・　２年生については，国語科のどの領域も経験できるように年間指導計画を作成し，その子どもの得意なこと不得意なことを確認するとともに，一つ一つの内容についてその子どもなりに成長できるように指導する。本題材では，「聞くこと・話すこと」「書くこと」を中心に，題材の目標を設定し，一人一人の子どもの教育的ニーズに応じることができるようにする。６年生については，これまで培ってきた基礎的・基本的な力のうち，「聞くこと・　話すこと」「読むこと」を中心に年間指導計画を作成し，その子どもの将来の生活にとって必要な力や更に伸びそうな力を選択して指導する。本題材では，「聞くこと・話すこと」「読むことを中心に題材の目標を設定し，対象とする子どもの教育的ニーズに応じることができるようにする。

【研究の視点２ーア】

○　研究の視点２「子ども一人一人がめあてをもち，生き生きと活動する授業づくり」

・　本題材のめあては，２年生は「おはなしブックをつくろう」６年生は「かみしばいを作ろう」と設定することで，この時間で何をするということが子どもに分かる行動で示すようにするとともに，必ずその一単位時間で達成できるものにする。また，子どもが達成感を十分に味わうことができるように，めあてが達成できたと子ども自身がはっきり感じることができるような教材・ 教具を準備する。２年生においては，ワークシートを個別の実態に合わせて作成し，全部できた際には，「合格シール」をはって子ども自身がめあてに対する達成感を味わうことができるようにする。６年生においては，作り上げた紙芝居を２年生の前で発表することで，めあてに対する達成感を味わうことができるようにする。　【研究の視点２ーウ】

・　活動内容は，２年生においては，子どもの活動したいという欲求を引き出すために，お話を作る場面を，自分たちの生活の中でありそうな場面を絵にしたものを掲示したり，子どもたちの興味を示す「宝つりゲーム」や「なにがでるかなゲーム」など身体の動きが伴った活動を取り入れ，子どもの集中力が継続するようにする。６年生においては，Ｄ児が興味のある「昆虫」の題材で自作の物語を作成し，自分で学習の手順を見ながら，各場面の絵を描いたり，音読をしたらシールをはるなどの好きな活動を取り入れることで，意欲的に学習に取り組むことができるようにする。　【研究の視点２ーエ】

○　研究の視点３　「学んだことが生活でいきるための家庭や在籍校との連携

・　毎時間の指導に関しては，連絡帳等で保護者に知らせるとともに，学習した内容を家庭でも確認して，子どもをほめたり，認めたりしてもらうようにする。また，学習したことが日常生活の中でも使えるということを子どもが感じることができるように，生活単元学習と関連した教材を作成したり，家庭でも，保護者と一緒に学習したり実践したりできる内容の課題を準備する。

４　指導計画（全８時間）　　は教師の支援

時間	主な学習活動　（２年）	時間	主な学習活動　（６年）
	★　みじかい　ぶん（二） 『ゆき』『かめ』　（１時間） 『ぼくといぬ』・・「が・も」　（１時間） 『なにがつれるかな』・・「が・も・と」（２時間） 『うんどうかい』・・「は・も・を」　（１時間） 『あきのあそび』・・「で，を」　（２時間） 『「え」と「へ」』『「は」と「わ」』　（１時間）		★　かみしばいを作ろう。 『かぶと虫のゆめ』　（２時間） 『どっちが強い！？』　（３時間） 『虫たちの秋』　（３時間）
１時間の流れは，以下の学習活動（２年生１～８，６年生１～４）であり，これを８回繰り返して学習する。			
8 本時 4 ／ 8	１　絵を見て，どんなお話か考える。 こどもが，生活で体験するような場面の絵を準備する。 ２　「おはなしブック」の作り方を知る。 めあての後に何をするのか手順を示す ３　分かったことの発表のしかたを確認する。 発表の話型を黒板に掲示し，いつでも話型を確認することができるようにしておく ４　「今日の活動」をする。 板書した絵と同じような場面のゲームをしたり，紙芝居の絵を見たりと子ども自身が意欲的に取り組むような活動を準備する。 ５　分かったことを発表する。 板書の絵と同じ絵（シール）を準備し言葉の理解の確認ができるようにする。 ６「おはなしブック」に文を書き加える。 話型に沿って，文が書けるようにする ７　がんばったことを発表する。 完成した「おはなしブック」等を確認するとともに，大いにほめることで，達成感を感じるようにする。 ８「ぼくの本」に綴る。 学習した後も，いつでも内容を振り返ることができるようにする。	8 本時 4 ／ 8	１　それぞれの場面のお話を読み取る。 文字の大きさを少し大きめにしたり，教材文の文節間や行間を広く取ったりすることで，音読しやすいようにする。 学習の進め方 (1) 教師の読み聞かせを聞く。 (2) 登場人物の気持ちを考えて発表する。 (3) 発表した場面の絵をかく。 (4) 漢字やローマ字に読み仮名をつける。 (5) 音読（読みの練習）を３回する。 (6) ２年生に発表する。 ２　手順通りにそれぞれの場面の学習を進める。 学習の進め方カードを本児の分かりやすい所に示しておき，一人でも学習が進められるようにする。 本児が興味を示しそうな活動や身体の動きがある活動を多く取り入れることで最後まで集中して学習することができるようにし，また２年生に発表するということで，意欲をもちながら，課題に取り組むことができるようにする。 ３　完成した紙芝居を発表する。 学習したことを２年生の前で発表することで，自信をもって音読できるようにする。 ４　「ぼくの好きな物語」の本に綴る。 学習した後も，いつでも内容を振り返ることができるようにする。

5　本　時

（1）目　標（個人目標）

A児	○　板書の発表カードを見て，ゲームの中で，話型に沿って「が・も」の助詞を使った二語文で発表することができる。 ○　発表したことを基に，書くことが苦手な文字については，なぞり書きをしながら，「おはなしブック」を作ることができる。
B児	○　板書の発表カードを見て，ゲームの中で，話型に沿って「が・も」の助詞を使った二語文で発表することができる。 ○　発表したことを基に，書くことが苦手な言葉については，視写しながら，「おはなしブック」を作ることができる。
C児	○　板書の発表カードを見て，ゲームの中で，話型に沿って「が・も・と」の助詞を使った二語文以上の文で発表することができる。 ○　発表したことを基に，マスの中に言葉を書いて，「おはなしブック」を作ることができる。
D児	○　教師の読み聞かせを聞いて登場人物の心情を読み取り，その場面を絵に描くことができる。 ○　読めない漢字やローマ字に読み仮名を付けたり，文節に区切って音読したりすることに注意しながら，２年生に紙芝居を読むことができる。

（2）展　開

過程	時間	主な学習活動（2年）	主な学習活動（6年）	時間	過程
つかむ	(分) 10	1　前時までの課題プリントをする。 2　学習計画を確認する。 3　本時のめあてを確認する。 「おはなしブック」をつくって，つれたものをみんなにおしえよう。	1　学習計画を確認する。 2　本時のめあてを確認する。 かみしばいを作り，２年生に読んであげよう。	(分) 3	つかむ
みとおす	7	(1)　めあてを言葉に出して読む。 (2)　めあてをワークシートに書き写す。 4　前時の活動を振り返りながら，「おはなしブック」の作り方をみんなで確認する。 (1)　ゲームをする。 (2)　つれたたからのシールをはったり発表したことを書いたりする。 (3)　ごほうびをもらう。	3　紙芝居の作り方を進め方カードを見ながら確認する。 (1)　先生の読み聞かせを聞く。 (2)　登場人物の気持ちを考えて発表する。 (3)　発表した場面の絵をかく。 (4)　漢字・ローマ字に読み仮名をつける。 (5)　音読を３回する。	7	みとおす
かつどうする	23	5　ビデオを見て宝つりゲームをする。 ★宝つりゲームのしかた (1)　ゲームのしかたのビデオを見る。 (2)　一人ずつゲームをして，つれたたからをはっぴょうする。 (3)　先生から，つれたたからのシールをもらう。 ★発表話型 A・B児　○○ が つれました。 ○○ も つれました。 C児　○○ と ○○ が つれました。 ○○ も ○○ も つれました。 6　「おはなしブック」を作る。	4　紙芝居を作る。 カブトムシこうくんは，クワガタムシまーくんに勝ってうれしかったのかな。 勝ってうれしいこうくんの絵をかこう。それから，読めない漢字とローマ字に読み仮名を書いておこう。 5　紙芝居コーナーで２年生に発表する。 じょうずに読むことできるかなあ。練習をしよう。 ２年生は喜んでくれるかな。ドキドキするなあ。 	30	かつどうする
ふりかえる	5	7　６年生の紙芝居を見る。 8　本時の学習について振り返る。 9　次の学習について知る。	6　本時の学習について振り返る。 7　次の学習について知る。	5	ふりかえる